

## 17. 消防・防災分野 - - - 消防活動支援

### 2005年

- 具体的なシステム概要
  - 地下街などの屋内空間の避難口誘導灯などに付した電子タグからの位置(D)情報等を活用し、消防隊員の位置を特定するシステム
- 実現の効果
  - 屋内空間で活動中の消防隊員の位置情報を基に、現地指揮本部による的確な指揮命令が可能となり、安全で効率的な消防活動が確保される
- 技術開発課題
  - 通信方式、電子タグ登録情報の標準化
  - 消防隊員が装着する位置特定装置等の小型軽量化
- 取り組むべき課題
  - 実戦配備用システムの開発、タグの設置の促進策、電子地図情報の整備

### 利用イメージ

---

### 2010年

- 具体的なシステム概要
  - 地下街や大規模建築物などに、電子タグからの情報にリンクした、各階平面図、店舗情報、危険物、管理者の情報などの消防活動支援情報を配置し、各隊員が消防活動を行う上で必要な情報を活動現場で取得可能なシステム
- 実現の効果
  - 災害現場の特性にあった効率的な消防活動が可能となる
  - 平常時には、各階平面図や店舗情報等を、来客へ提供したり、施設の維持管理等に広く活用
- 技術開発課題
  - 各種登録情報の標準化、機能性の向上、小型軽量化などシステムの改良
- 取り組むべき課題
  - システムの普及、改良、タグの設置の促進方策、消防活動支援情報の整備

### 利用イメージ

## 17. 消防・防災分野 - - - 災害情報収集

### 2005年

- 具体的なシステム概要
  - 街中いたるところに書き込み可能な電子タグを配置し、大規模災害時に被災者が書き込んだ安否情報等を救援者等が吸い上げ、被災地外に運び出すシステム
- 実現の効果
  - 通信が途絶した被災地内の情報を、現場を歩く救援者等がきめ細かく収集し、救援にいち早く活用
- 技術開発課題
  - 端末・アンテナの小型化、読み書き性能向上、情報の運び出しを保証する手段の確立
- 取り組むべき課題
  - 電子タグ及び端末の普及方策

### 利用イメージ

---

### 2010年

- 具体的なシステム概要
  - 被災地を往来する被災者もしくは救援者が、意識することなく(携帯する端末に被災地情報を自動的に収集するシステム
- 実現の効果
  - 被災地外との間を行き来する人たちが本来の用事をしつつ無意識に、通信が途絶した被災地内の情報のメッセージャーとなる。
- 技術開発課題
  - 端末・アンテナの一層の小型化、読み取り距離の拡大、読み取り処理の高速化、信頼性向上
- 取り組むべき課題
  - 携帯電話など既普及端末に本機能を搭載するための方策

### 利用イメージ